

新しい時代に向けて
bhfは生まれ変わります。

「この秋、

全く新しい発想の企画、生産、販売のチーム作りでヨーロッパのセンスと、東南アジアの価格と勝負します。

カシミアブランド ハウス・オブ・ホワイトカシミアも秋本番に向けてのラインアップ完了。

ニブランドで、今シーズンこそ飛躍のシーズンです。

秋冬物展二小会

八月二十二日(火)〜二十五日(金)

と翌週 二十九日(火) & 三十日(水)

当社にて開催

お盆明け、すぐの開催です。

この秋冬を頑張ろうと決心されたら、必ずbhfの展示会を見てください。

ニット本来の味が最も出る七ゲージ、十ゲージが中心です。

セミベージックを揃えました。

プティックがお薦めできる、リーズナブル・プライスのセミベージックは有りそうでなかなか無いと思います。

品揃えの必須アイテムです。

パット咲いてパットと散る、夏の花火のように派手でなくても、ベース・オブ・ハイファッションの名前のごとく、良い物をじっくり長く着ていただきたい。

そんなロングセラーの物づくりを目指して、

秋冬物展お薦め best-3



6色展開

オフ、ベージュ、ミドルグレイ、ブラック、レッド、ライトグリーン

7ゲージ 地柄リンクス

今年の注目アイテム、ベスト。快適な着心地のソフトラムを79cmのロング丈のベストに表現しました。前後のリンクス柄が特徴。

NO. 31041 w80%, Ny20% 有りそうでなかなか無い注目アイテム。
上代 ¥14,800



7色展開

オフ、ベージュ、クリーム、ライトグリーン、ミドルグレイ、ブラック、レッド

10ゲージ 5X2リブ編み(アンゴラ混)

ニット本来の柔らかさ、フルシーズン着用できる、カーディガンは一枚あるととっても便利です。またニットらしいニットの時代がや

って来たようです。
NO. 31024 W75%, Ny25%
上代 ¥12,800

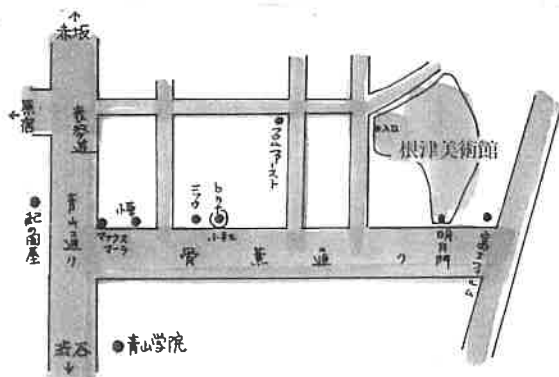


4色展開

オフ、ブラック、レッド、ミドルグレイ

懐かしいリーフ柄の透かし編みです。伝統的な編み地が新鮮に見える時代ですね。着丈も普通丈です。他にNO.28003の階段柄もあります

NO. 28010 W85%, Ny15%
上代 ¥15,000



ハイグレードなセミベージックにこだわります。

お店をアピールする完璧に『クリエイティブ』されたデザイン物と、売上の根本を左右する『売り筋』のセミベージックのバランス良い品揃えが経営を左右する時代到来です。

南青山界隈

骨董通りというところ、『古い木造の暗い店が並んでいる、狭い通り』そんなイメージがわきそうですが、ここ「青山骨董通り」はそれとはかなり違います。

青山通りの角のマックスマラーに始まりベルサーチ、クロエ(小社の入るビル)エレウノ、ジルサンダー、ボス、ハンティングワールド、トラサルディー等々、敷え上げたらきりが無いほど外国の有名デザイナーのプティックが多く、東京の中でもおしゃれでナウイ通りです。

骨董という名の通り、骨董屋さんが多く集まっている通りなんです、その骨董屋さんが集まる基になってるのが根津津美術館。

東洋美術の殿堂といわれ、七千点余りのコレクションの中には国宝が七点、重要文化財や重要美術品の指定を受けているのが百八十点余りもある

そんなので、東洋古美術に興味のある人にとってはまさに垂涎の的だと思います。起伏に富んだ日本庭園は青山という名前に相応しく、深い緑に覆われて茶室や池があり、まさに都会の中のオアシスのようです。

現在は骨董通りの方は閉まっていますが、以前はこっちが正面で、美術館にぐるのお客様を目的に骨董屋さんが集まったんじゃないかと思えます。

美術館を訪れ、逸品に感動した余韻で骨董屋の主人と骨董談義に花を咲かせたんでしようね。

でも小社の向かい側の『からくさ』の中島のおやじさんは『開運』なんでも鑑定団ですっきり有名になっていきます。今では根津美術館よりテレビの効果はずっと大きいんじゃないでしょうか。



明明

かますの話し

久し振りに頭をがーんと一発殴られたような、強烈な印象を受ける話しを聴きました。アムウェイという面白いビジネスをやっているんですが、そのビジネスの成功者の話しです。

頑張っているんだけど、何か一つ燃えてくるものが無い。そんな時の先輩の話しだそうです。

その話しは、『かますっていう魚って知ってる？』から始まりました。

かますは肉食でかなり薄狂な魚だそうです。そのかますが泳いでいる水槽の中に餌の魚を入れると、かますはすぐ餌に突進して、バッコーンと食べるんだそうです。凄い勢いで、迫力満点だそうです。

その水槽にガラスで仕切りをして、その仕切りの向こう側に餌の魚を放すとどうなるか。

かますは猛然と向かっていきます。もちろんガラスで仕切られているので、ガラスにぶつかります。何回やってもぶつかり、かなりのダメージを受けるそうです。

そこで、そっとガラスの仕切りを取り外したらどうなるか？

かますは目の前を泳いでいる餌の魚に興味を示さなくなってしまうそうです。

それどころか、餌の魚が近づいて来ても避けるようになるそうです。

かますの気持ちがよく解りますね。

へー、そんなことあるんだなーと感心していると、そこで質問！『そのかますに餌を食べさせるのにはどうしたらいいか？』

その人はかますの口の中に餌を突っ込むと言ったそうです。もちろん駄目だったそうです。

私は、痛さを忘れるまで待つ。

食べなければ生きていけない、そこまで飢えると自然に食べるようになる、と聞いていました。

答えは違っていました。正解は『その水槽に野生のかますを入れる』です。外から入れられた新鮮なかますはもちろん泳いでいる餌の魚をパンパン食べるそうです。それを見ていた古かますは、焦って餌のさかなを捕まえる始まるそうです。

『今の君は美味しい餌の魚を見ても食べられない、その古かますじゃないの？』と言われゾッとしました。

このかます、僕らが食べているあのカマスなのか作り話なのかわかりませんが、現在の自分を示唆して、思い当たるふしがいっぱいあります。とっても大事なことを思い起こさせてくれた話しでした。



かます (名) 食用魚目カマス科の魚。アサギマス・アサカマスの2種がある。体は細長くて円筒形、口先は長く尖り、背は高く、背日本に多く産出。食肉、食塩、食酢。

*****覚えておくと便利ニット豆辞典*****

1年間のニット 約6億枚
75%以上が外国産

現在日本に供給されているニットは1年間で約6億枚、赤ちゃんからおばあちゃんに至まで、1人5枚買わないと売れ残る計算になります。そんなに売れるんでしょうか。売れると思って作るのか、予算通り作ったら6億枚になったのか。ニットだけが特別供給過剰でなくすべての衣料品を、同じ様に供給しているそうですからスゴイ生産量ですね。ちなみに外国産の内、アジア産が80%

ガンバレ！ メイド・イン・ジャパン

水茶のみ話

ケルクラード

ニット屋になる前は海外旅行の添乗員でした。チャンスがあったら是非お薦め

ドイツ国境の小さな街で



旅の思い出は人それぞれ、主観と偏見に満ち満ちて、決して一様ではないですね。同じところへ行っても同じ物を見たり体験しても、感じ方も違えば印象も違う、これこそ旅の醍醐味であり怖いところでもありますね。

ヨーロッパの中で、どういう訳か縁あって強く心に残っているのがケルクラードというオランダの小さな田舎の街。オランダ人に聞いてもあまり知らないような、人口五万人ぐらいのドイツとの国境の街です。毎日ドイツに通勤している人も多いです。

この街にロルダックという修道院があります。尼僧院ですが、建物の一部を宿泊用として一般に開放しているんです。多分この町一番の宿泊施設だと思います。

これまでに三回訪れたんですが、ここでの体験はヨーロッパの文化を理解する上でとても勉強になりました。

ロルダックは決して豪華ではないけど、重厚な建物は威厳があってそれでいて明るく、清潔で、静かで、その上安いという、願ったり適ったりの宿でした。三食付ですが一般の家庭と同じで暖かい肉料理はお

屋だけ、夜はスープとハムとパンぐらいでヨーロッパの日常生活の中でのディナーとサバーの違いを納得したのはここでした。

僧院ですから立派な教会があります。神戸の甲南女子高校のコーラスの生徒達と滞在しているとき、この教会を使わせてもらいました。とってもいい響きで、あたかも楽譜の中にあるような気分です。

ゴチックの高い天井まで登った彼女達の歌声が、天から降ってくるような残響に、思わず鳥肌が立つような感動を覚えたことを思い出します。

指揮者の森先生が『二休符の意味と効果がよく解りますね』と言われた言葉が印象的でした。(四休符とおっしゃたかも知れません。素人の私には微妙な違いが分かりません。スママセン)

この小さな国境の街は、毎年世界音楽コンテストを開催しています。それがここを訪れるきっかけになったんですが、



学生達とこの町を訪れる度に、市長さんが直々に全員を市庁舎に呼んでお茶をこ馳走してください。街をあげてホームステイを引き受けて頂いたり、本当に感謝しています。

大袈裟とか派手ではなく、淡々とした本物のホスピタリティを持った思いで深い街です。